

教科	国語	学年	第4学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
つないで つないで	2	相手が言葉や動きをとおして伝えたいことは何か考えながら聞き、相手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	「話すこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。	相手の言葉や動きを受け止め、相手が伝えたいことは何かですんで考え、自分の考えをもとうとしている。
春のうたあり	2	繰り返し音読をしながら、言葉のリズムや響きを味わい、イメージの広がりを楽しむ。	文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	ですんで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
白いぼうし	10	物語の「ふしぎ」について考え、短い言葉で表し、紹介し合う。	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 「話すこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	不思議なできごとが起こるきっかけを見つけながらですんで物語の「不思議」に思うところを見つけ、「不思議」について考えたことを短い言葉で表し、伝え合おうとしている。
見つけよう、ぴったりの言葉	4	心が動いたできごとを、短い文章で表現する。	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 ・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。	「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことを想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	ですんで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見通しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。
漢字の広場 ① 漢字の部首	2	漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。	漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。		ですんで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。
三年生で学んだ漢字 ①	2	絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
ぞうの重さを量る	2	象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。	・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 「話すこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	ですんで、読みやすい文章のポイントについて考えることをとおして、学習課題に沿って、筋道立てて文章を書こうとしている。
花を見つける手がかり	10	「もんしろちようは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。	・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 「話すこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) 「話すこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ)
分類をもとに本を見つけよう	4	学校や地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。	・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解して使っている。 ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	分類を手がかりに目的の本を見つけ、読んで分かったことを記録しようとしている。
漢字辞典の使い方	2	漢字辞典の引き方を理解し、活用する。	・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解して使っている。 ・漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。		積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。

メモの取り方のくふう	3	メモの取り方を工夫したり、質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解している。	「話すこと聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。	メモの取り方を工夫したり、相手に質問したりしながら、必要な情報について積極的に聞き、自分の考えをもとうとしている。
リーフレットでほうこく	10	リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。	漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方などを理解して文や文章の中で使っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。	「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。	積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見直しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。
いろいろな手紙	2	手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。	丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。	「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見直しをもって、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書くようとしている。
短歌の世界	4	短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。	易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	すすんで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見直しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。
漢字の広場② 漢字の音を表す部分	2	形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立っている。	漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。		すすんで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題に沿って、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立ようとしている。
都道府県名に用いる漢字	1	都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。
三年生で学んだ漢字 ②	2	絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
落語 ゾロゾロ	10	落語を読んで見付けたおもしろさが伝わるように、音読したり演じたりして楽しむ。	・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	すすんで場面の様子や登場人物の気持ちを具体的に想像して読み、おもしろいと思ったところを伝え合い、今までの学習を生かして落語を音読したり演じたりして楽しむようとしている。
ひろがる読書の世界	1	「本について語り合う」、「同じ作者の本を読む」という学習活動を通して、幅広く読書に親しむ。	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	読書生活を振り返り、読みたい本を選んだり、これからの読書生活を考えたりしている。
写真から読み取る	6	伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	「話すこと聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。	粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え、学習の見直しをもって、写真から読み取ったことを話そうとしている。

作ろう学級新聞	5	割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。	・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。 ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	粘り強く間違いを正したり文章を整えたりし、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。
漢字の広場 ③ 送りがなのつけ方	2	送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきを使う。	漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を利用して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。		すすんで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字を正しく使おうとしている。
三年生で学んだ漢字③	2	絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようにしている。
一つの花	9	場面の様子を比べて読み、感想を伝え合う。	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	すすんで場面の様子を比べて読み、大切な言葉から作品に込められたメッセージや作者の思いを積極的に想像し、今までの学習を生かし、自分の考えたことや感想を感想文に書いて、伝え合おうとしている。
修飾語	2	文の中での修飾語のはたらきを理解する。	主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。		すすんで修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、修飾語を見付けたり、修飾語の種類を見分けたりしようとしている。
作ろう！「ショートショート」	9	不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。	漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を利用して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。	「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。
「月」のつく言葉	1	昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関する言葉を集める。	長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。	「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	すすんで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関する言葉を集めようとしている。
こくごの学習 つながる ひろがる	1	一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	「話すこと聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	すすんで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、上巻の教科書での国語の学習を振り返ったり下巻の教科書での国語の学習への希望を話し合ったりしようとしている。
ごんぎつね	8	登場人物「ごん」の気持ちを詳しく想像して読み、気持ちの変化がわかるように「ごん日記」を書く。	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	すすんで、登場人物の気持ちの変化や情景について場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って登場人物になりきって、気持ちの変化がわかるように日記を書くようにしている。
「読書発表会」をしよう	3	紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」を行い、読書の幅を広げる。	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	ブックトークに向けて、すすんで本を集めたり発表内容を考えたりし、粘り強く活動に取り組んでいる。
言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ	4	言葉や音が表すイメージや、イメージに即した言葉を考えたりすることによって、言葉の特性について考える。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	「話すこと聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。	すすんで、言葉には考えたことや思ったことを表すはたらきがあることに気づこうとして、学習課題に沿って、言葉がもつイメージについて考えようとしている。

みんなが楽しめる新スポーツ	9	司会者や発言者などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えを伝え合って話し合う。	・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	「話すこと聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。	積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。
漢字の広場④ いろいろな意味を表す漢字	2	一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。
三年生で学んだ漢字④	2	絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
ウミガメの命をつなぐ	9	ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋水族館の取り組みを時系列に沿って読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。	・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	すすんで、本文を読んで自分が興味をもった部分を要約することを通して、学習課題に沿って、本文をわかりやすく紹介する文章を書くようとしている。
二つのことがらをつなぐ言葉	2	二つの事柄をつなぐとき、使う言葉によって内容が大きく変わること理解し、接続語のはたらきを意識して、正しく使い分ける。	主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。		すすんで接続する語句の役割について理解し、学習の見通しをもって、接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。
クラスの「不思議ずかん」を作ろう	6	図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。
故事成語	4	故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。	長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。
いろいろな詩 おきな木	2	さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。	文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。	すすんで、詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって発表し合おうとしている。
漢字の広場⑤ 熟語のでき方	2	二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。
三年生で学んだ漢字⑤	2	絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

くらしを便利にするために	7	「便利」とはどういうことを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。	・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。 ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	積極的に筆者の考えと自分の考えを比べながら読むことを通して、具体的な経験をもとに考えをまとめることの有効性に気付いている。
手話であいさつしよう	1	声を使わないで考えや思いを伝え合う手話について知り、簡単な挨拶をする。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	「話すこと聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。	手話には考えや思いを伝えるはたらきがあることに気付き、学習課題に沿ってすんで手話であいさつをしようとしている。
「便利」を探そう	9	調べて分かったことを、相手に伝えるように資料を示したり、話し方を工夫して、発表する。	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	「話すこと聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。	身のまわりの「便利」について調べ、分かったことを図などの資料を示しながら、言葉の調子や強弱、間の取り方に気を付けて発表しようとしている。
点(.)を打つところ	2	読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。	・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。 ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。		すんで句読点のはたらきを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で適切に使おうとしている。
自分の成長をふり返って	10	様子がわかるように、よりよい表現を選んで書く。	・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。 ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。	・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまともりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えている。	積極的に、書こうとしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見直しをもって、よりよい表現を選んで文章を書こうとしている。
雪	1	「雪」を扱った言語表現を集める。	長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	すんで、長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし、学習の見直しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。
漢字の広場 ⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け	2	異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。	漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。		すんで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で正しく使おうとしている。
漢字の広場 ⑥ 三年生で学んだ漢字 ⑥	2	絵を見て想像したことをもとに、三年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまともりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、お話の一場面を書こうとしている。
人形劇 木竜うるし	9	登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考えながら読み、考えを伝え合う。	相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	積極的に登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考え、学習課題に沿って、考えたことを根拠をはっきりさせて伝え合おうとしている。

<p>国語の学習 これまで これから</p>	<p>2</p>	<p>一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。</p>	<p>相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。</p>	<p>○「話すこと聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。</p>	<p>すすんで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、一年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。</p>
------------------------	----------	--	--	--	---